資料１－１

ユネスコ「世界の記憶」事業における国際登録（2024－2025 登録サイクル）への登録申請案件について

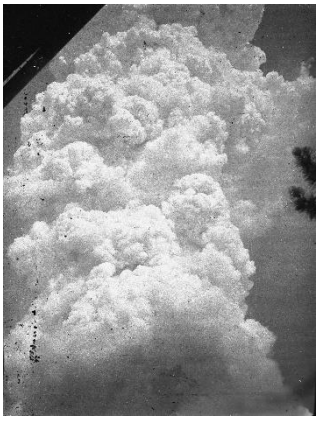
１．概要

- 令和５（2023）年７月のユネスコの公募開始を受けて国内公募を行い、申請のあった５件について、「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会において、専門的・技術的観点から調査審議を行った。
- 審査委員会での審査を経て、ユネスコ「世界の記憶」関係省庁連絡会議において、我が国からユネスコ「世界の記憶」における国際登録（2024－2025 登録サイクル）に、以下の登録申請案件（２件）を推薦することが決定され、令和５（2023）年 11 月末にユネスコへ申請書の提出を行った。

①増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書【別紙１】
（申請者：浄土宗、大本山増上寺）

高麗版大蔵経『無量寿経』一部抜粋

②広島原爆の視覚的資料―1945 年の写真と映像【別紙２】
（申請者：広島市、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、中国放送、日本放送協会）



原爆さく裂直後のきのこ雲（深田敏夫氏撮影、広島平和記念資料館所蔵）

２．今後の予定

- ユネスコの国際諮問委員会（IAC）における審査を経て、2025 年春のユネスコ執行委員会において登録の可否が決定される予定。

別紙１

１．記録物のタイトル
増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書

２．申請者
宗教法人浄土宗、宗教法人増上寺

３．記録物の概要
浄土宗の大本山である増上寺が所蔵する三種の大蔵経とは、中国の宋代および元代そして朝鮮王朝時代に当時最高の印刷技術で制作された、

①中国、南宋時代（12 世紀）に開版（版木が作成）された思渓版大蔵経 5,342 帖
②中国、元時代（13 世紀）に開版された普寧寺版大蔵経 5,228 帖
③朝鮮、高麗時代（13 世紀）に開版された高麗版大蔵経 1,357 冊

という、総数約 12,000 点に及ぶ木版大蔵経群である。「大蔵経」とは一蔵が 5,000 巻を超える仏教聖典の叢書であり、仏教文化の根拠と基盤をなす一大文献群である。これらは、17 世紀初頭に江戸幕府を創設した徳川家康が収集し、増上寺に寄進したものである。その後、関東大震災や東京大空襲などの危機を乗り越え、今日まで増上寺において伝承されている。

多くの大蔵経が王朝の変遷や戦乱により散逸するなか、15 世紀以前に作られた三つの大蔵経がほぼ完全な状態で所在されていることは世界で他に類を見ない。

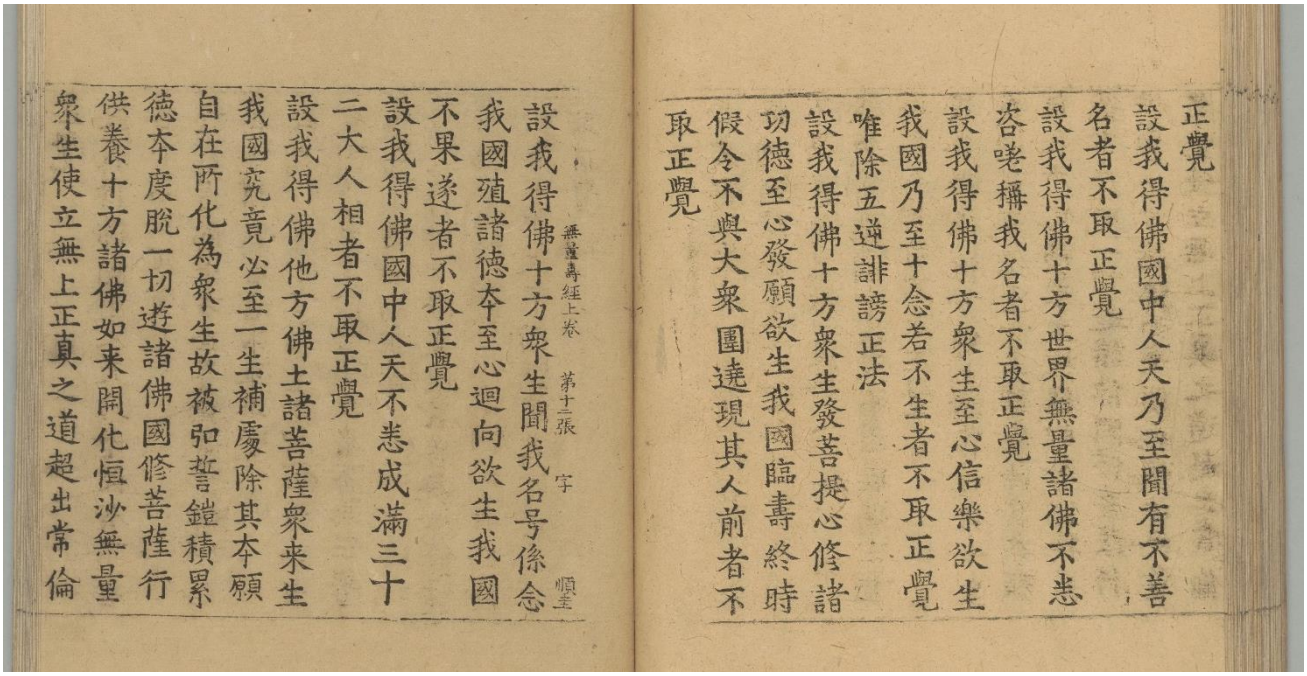
近代になると、明治と大正時代にはそれぞれ校訂を施した大蔵経を刊行するため、増上寺で三大蔵が校合され活版印刷となり、大蔵経が広く流通したことで、仏教は近代的学問の対象となった。そして現代では最先端の技術を用いてデジタルアーカイブとなり、持続可能な地球平和と調和のための、世界の精神文化史の一環として注目されている。

４．記録物の意義・重要性
増上寺が所蔵する三種の大蔵経は、近代の批判校訂版である『大日本校訂大蔵経』や『大正新脩大蔵経』の基幹的な典拠資料となったことで、仏教学の世界的な基盤形成に唯一無二の貢献を果たした。また三大蔵は仏教文献叢書ですが、収録される文献の内容の多様性および文化財としての重要性や稀少性から、歴史学や言語学など仏教学以外の多分野においても重要な役割を果たしている。今般、デジタル研究環境への移行にともない、三大蔵は仏教研究における世界的研究基盤である「SAT 大蔵経データベース」のテキストデータベースの典拠資料として活用された。また Unicode における文字符号化の根拠にもなり、現在まで三大蔵をもとに 3,000 字超の仏典外字が登録されるなど、デジタル時代の世界の宗教・思想研究にも影響を与えている。

さらに 2023 年 11 月、この三大蔵を高精細デジタル画像としてウェブ上に無償公開した。誰でも世界中からアクセスできるようになった三大蔵が有する重要性は、これからの長きにわたるデジタル時代において、さらに高まっていくことが想定される。

浄土宗大本山増上寺所蔵三大蔵（公開サイト）：http://jodoshuzensho.jp/zojoji_sandaizo/

〔参考画像〕

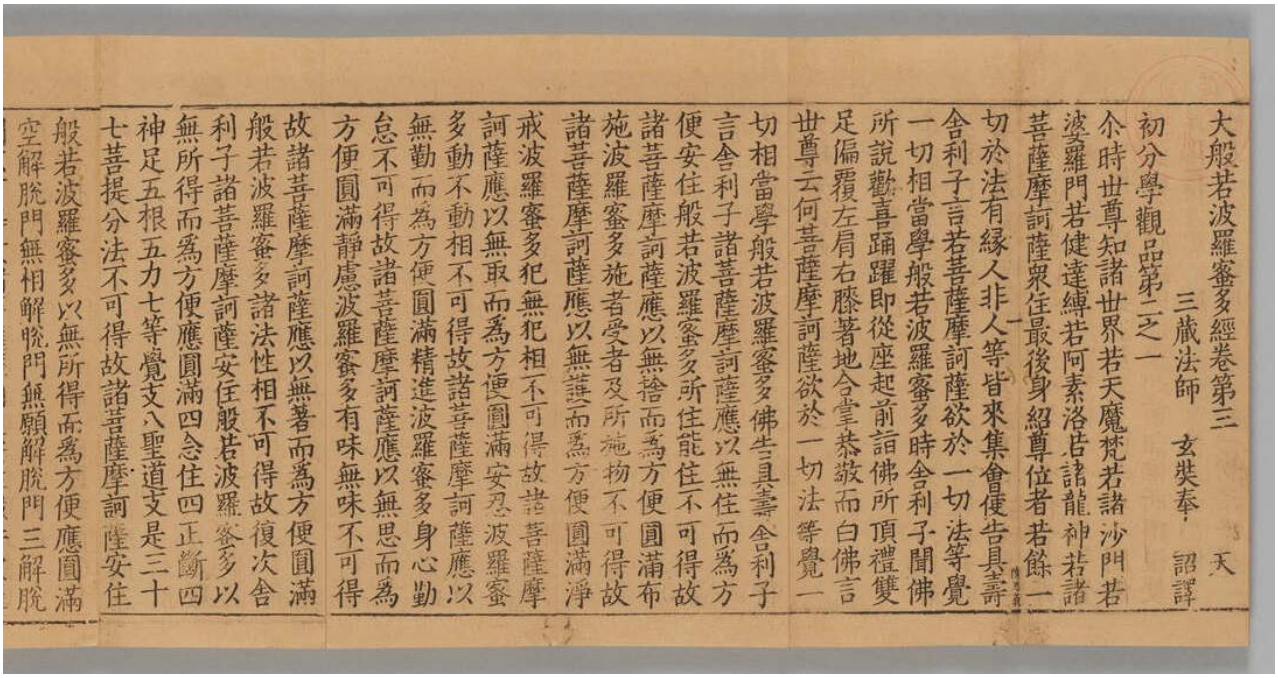


正覺
設我得佛國中人天乃至聞有不善
名者不取正覺
設我得佛十方世界無量諸佛不悉
咨嗟稱我名者不取正覺
設我得佛十方衆生至心信樂欲生
我國乃至十念若不生者不取正覺
唯除五逆誹謗正法
設我得佛十方衆生發菩提心修諸
功德至心發願欲生我國臨壽終時
假令不與大衆圍遶現其人前者不
取正覺

無量壽經上卷　第十二張　字　順至

設我得佛十方衆生聞我名号係念
我國殖諸德本至心迴向欲生我國
不果遂者不取正覺
設我得佛國中人天不悉成滿三十
二大人相者不取正覺
設我得佛他方佛土諸菩薩衆来生
我國究竟必至一生補處除其本願
自在所化為衆生故被弘誓鎧積累
德本度脫一切遊諸佛國修菩薩行
供養十方諸佛如来開化恒沙無量
衆生使立無上正真之道超出常倫

高麗版大蔵経『無量寿経』一部抜粋



大般若波羅蜜多經卷第三　天
三藏法師　玄奘奉　詔譯
初分學觀品第二之一
尒時世尊知諸世界若天魔梵若諸沙門若
婆羅門若健達縛若阿素洛若諸龍神若諸
菩薩摩訶薩衆住最後身紹尊位者若餘一
切於法有緣人非人等皆來集會便告具壽
舍利子言若菩薩摩訶薩欲於一切法等覺
一切相當學般若波羅蜜多時舍利子聞佛
所說歡喜踊躍即從座起前詣佛所頂禮雙
足偏覆左肩右膝著地合掌恭敬而白佛言
世尊云何菩薩摩訶薩欲於一切法等覺一
切相當學般若波羅蜜多佛告具壽舍利子
言舍利子諸菩薩摩訶薩應以無住而為方
便安住般若波羅蜜多所住能住不可得故
諸菩薩摩訶薩應以無捨而為方便圓滿布
施波羅蜜多施者受者及所施物不可得故
諸菩薩摩訶薩應以無違而為方便圓滿淨
戒波羅蜜多犯無犯相不可得故諸菩薩摩
訶薩應以無取而為方便圓滿安忍波羅蜜
多動不動相不可得故諸菩薩摩訶薩應以
無勤而為方便圓滿精進波羅蜜多身心勤
怠不可得故諸菩薩摩訶薩應以無思而為
方便圓滿靜慮波羅蜜多有味無味不可得
故諸菩薩摩訶薩應以無著而為方便圓滿
般若波羅蜜多諸法性相不可得故復次舍
利子諸菩薩摩訶薩安住般若波羅蜜多以
無所得而為方便應圓滿四念住四正斷四
神足五根五力七等覺支八聖道支是三十
七菩提分法不可得故諸菩薩摩訶薩安住
般若波羅蜜多以無所得而為方便應圓滿
空解脫門無相解脫門無願解脫門三解脫

普寧寺版（元版）大蔵経『大般若波羅密多経』巻第三　巻頭

別紙２

１．記録物のタイトル
「広島原爆の視覚的資料―１９４５年の写真と映像」

２．申請者
広島市、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、中国放送、日本放送協会

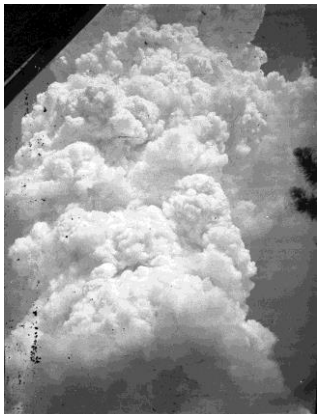
３．記録物の概要

米軍によって広島市に原爆が投下された 1945 年 8 月 6 日から同年 12 月末までの間に市内や近郊で撮られた写真 1532 点と動画 2 点の資料群。写真は、被爆した市民や報道カメラマンたち 27 人と 1 団体、動画は 1 団体が撮影した。人類史上初めて戦争に使われた原爆の強烈な熱線と爆風、さらに大量の放射線の放出によって引き起こされた多岐にわたる影響がつぶさに記録されている。

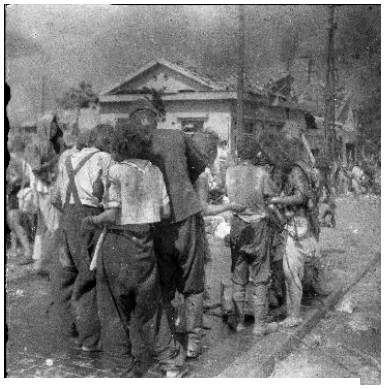
写真 1532 点のうち 218 点は、1978 年に広島で結成された「広島原爆被災撮影者の会」に参加した市民たちが中心となり撮影。爆心地から最も至近距離（約 2.7 ㌔）で撮られたきのこ雲（深田敏夫氏撮影）、被爆翌日の市中心部の焼け跡（岸田貢宜氏撮影）をはじめ原爆投下直後に地元の人たちがいち早くシャッターを切った写真が含まれる。

268 点は、地元報道機関、あるいはこの期間に広島に入った新聞・通信社のカメラマンや記者が撮影し、ネガやプリントが現存する全４社の資料。被爆当日の市民の惨状（中国新聞社の松重美人氏撮影）や、やけどの手当を受ける少年（朝日新聞社の宮武甫氏撮影）、顔を負傷した少女（毎日新聞社の国平幸男氏撮影）をはじめ多様な被災者を収めている。残る 1046 点は、写真家の林重男氏と菊池俊吉氏が学術研究会議（日本学術会議の前身）に設けられた「原子爆弾災害調査研究特別委員会」の調査に同行して 10 月に撮影した。爆心地付近の焼け跡のほか、けがや熱傷、放射線による急性障害に見舞われた市民が写る。

動画２点は、戦時中にニュース映画製作に携わっていた社団法人日本映画社が撮影した。1945 年 9 月 22 日公開の「日本ニュース第 257 号　原子爆弾　広島市の惨害」(2 分 50 秒）は、現存が確認されている中で最も早くに撮られた広島原爆に関する日本のニュース映像である。もう１点は、林氏らと同じ調査に同行して 9 月下旬から 10 月にかけて撮影した 110 分の記録動画。放射線の影響で髪が抜け落ちた子どもや救護



原爆さく裂直後のきのこ雲（深田敏夫氏撮影、広島平和記念資料館所蔵）



被爆当日の市民の惨状（松重美人氏撮影、中国新聞社所有、日本写真保存センター所蔵）

被爆翌日の広島市中心部（岸田貢宜氏撮影、岸田哲平氏提供、広島平和記念資料館所蔵）

所の様子を収めている。

写真 1267 点は撮影原板のネガフィルムまたはガラス乾板が現存し、265 点はプリントが一次情報として残る。動画は、編集作業や映写のためにネガフィルムを元に作られたポジフィルムが現存する。広島平和記念資料館や報道機関、国立映画アーカイブなどが所蔵し、全資料がデジタル化されている。

顔一面に負傷した少女（国平幸男氏が 1945 年 8 月 9 日に撮影、毎日新聞社所有）

上・やけどの手当を受ける少年（宮武甫氏が 1945 年 8 月 10 日撮影、朝日新聞社所有）
下・救護所で床に伏す母と娘（菊池俊吉氏が 1945 年 10 月 11～12 日撮影）田子はるみ氏所有）

上・「日本ニュース第 257 号」の一場面（日本放送協会所有）
下・放射線の影響で髪が抜け落ちた子ども（学術調査に伴う記録動画から。国立映画アーカイブ所蔵）

４．記録物の意義・重要性

広島に投下された原爆による犠牲者数は、1945 年 12 月末までの間に 14 万人（誤差±１万人）に上ったと推計されている。1945 年 12 月末は、白血球の減少や出血などの症状を伴って死亡例が相次いだ原爆放射線による急性障害が概ね収束するまでの期間である。本資料は、影響が特に顕著だったこの期間に、多様な撮影者がさまざまな角度から被爆者や街の状況をその場で、その瞬間に撮影しており、原爆による被害の実態を知る上で貴重な記録物である。日本が降伏文書に調印した 1945 年 9 月 2 日以降、米軍の戦略爆撃調査団などが広島市内に入って写真を撮影しているが、本資料はそれ以前に撮られた世界的に希少な写真が数多い。米軍の撮影内容は物理的な破壊状況が主だが、本資料は様々な被災者を収めている点でも重要である。

被爆者の高齢化が進む中、広島への原爆投下で何が起きたのかを記録物を通じて知る重要性は増している。本資料は、国内外から数多くの市民や首脳たちが見学に訪れている広島平和記念資料館で数多く展示されている。国連の場などで重要性が指摘されている軍縮教育の素材としても意義が大きい。世界の人々が原爆投下で何が起こったかを知り、決して繰り返さないという人類共通の課題に取り組むために失ってはならない遺産である。